

～ビーチコーミングで「うみと人の関係を見つめなおす」～  
一緒に水中遺跡の調査に参加しよう！

### 趣旨・概要

現在、うみラボでは、『みんなで海へ行こう』ウィークを開催しています。4月22日から30日までの間、海に行くことを目的に様々な活動を推奨しています。海と触れるイベントを推奨しており、多くの団体や個人に参加を募っています。海へ行き、海に触れ、海の大切さを知ってもらいたいと考えています。

うみラボは、このキャンペーンのもと、水中遺跡の調査に参加してもらおうと思っています。

過去の人と海の間を探る「水中考古学」ですが、なにやら難しく、研究者しか扱えないイメージがあるかもしれません。しかし、水中遺跡は身近な存在なんです。世界では、数百万件の水中遺跡があると言われていいます。発見の大多数は、普段から海に慣れ親しんでいる人々～漁師・ダイバーなど海のレジャー愛好家～によるものです。

水中考古学の調査では、海を見ることが最初の一步です。海岸では、ときおり陶磁器などのカケラが落ちていることがあります。そのカケラは、沖に存在する沈没船の積み荷であった可能性があります。海岸を歩いて歴史のカケラを探るビーチコーミングと言われる活動ですが、全国にファンがおり、漂着物学会やクラブなども存在します。水中遺跡調査を初めて行なう地域では、最初に文献史料や古地図に調査の他、漂着物や海揚がり品の情報を集めます。特に水中遺跡の発見例が少ない地域では、研究の最初の一步となる重要な作業です。しかし、海岸を歩くといっても、相当な時間を有する作業です。

そこで、その作業を、たくさんの人に同時に実施してもらおう！ という企画になります。特に専門的な知識も必要とせず、誰でも気楽に参加できる、まさに、水中考古学調査の導入に最適な調査手法です。

この企画では、海を見ることで、海の大切さ、海と人の関係の歴史を眺めるキッカケを造って欲しい。その思いもあり、「みんなで海を見よう」を合言葉に、水中遺跡の調査の導入を体感してもらえれば幸いです。

海岸を歩いて遺物を散策！ 写真を撮ってハッシュタグで情報を拡散。

スマホがあれば誰でも参加可能！ 専門知識必要なし。

全国どこの海岸でも OK！ 気軽に参加。

海に行けない人でも参加できます！ 撮影された陶磁器類など見て分析・分類作業で貢献。

自由に意見を出し合い、みんなで日本各地の海岸の遺物の分布状況をしらべよう！

期間 令和4年4月22日～30日

参加資格 特になし。うみ（海・湖）の大切さを理解したいと思う心

参加される方は、事前に以下の資料をざっとお読みください。熟読する必要はありませんが、水中遺跡調査の手法・手段、また、どのような遺物をさがすべきかなど参考となります。

アジア水中考古学研究所・全国水中遺跡データベース <http://www.ariua.org/projects/overallsurvey/>

文化庁・水中遺跡ハンドブック [https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkazai/shokai/pdf/93679701\\_01.pdf](https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkazai/shokai/pdf/93679701_01.pdf)

## 作業内容

### ビーチコーミング参加者

- 参加者は、それぞれ好きな日時で好きな海岸を歩く
- 陶磁器や遺物など昔のモノを見つけたらスマホなどで写真を撮る  
上手な写真の撮り方は、上記のアジア水中考古学研究所の資料をご覧ください。  
割れ口などから、断面の形状がわかるように撮ってください。  
茶碗などの底部の写真もアップをお願いします。
- 加工痕のある地形、大きな遺物など怪しい・人工物っぽいものなど、なんでも OK
- 発見した場所も可能であれば GPS などで記録を残す
- 写真や場所の記録を、随時、もしくは、まとめてツイッター等で共有する

### リモート参加者

- ハッシュタグをたよりに遺物を観察
- 時代・発見の意義などを自由に発信
- こんな遺物もある、海揚がりの例など、自由に発言してください。
- 発言の際には、タグを必ずつけてください

共有の際は、タグを必ずつけてください **#みんなて海へ行こう** **#水中考古学**

## お約束！

私有地には立ち入らないこと

写真は、個人が特定できないようお願いします

ゴミは必ず持ち帰る～または、ゴミ袋を持参し、海のゴミを拾って適切に処理

海で、ビーチコーミングをしている人がいたら、話しかけて見よう

参加は自己責任です。移動中の事件・事故には十分ご注意を...

**\*遺物は、発見した場所に残しましょう。もし、どうしても持ち帰りたい人は、お問い合わせフォームよりご連絡ください。保存処理を施さないと、どんどん劣化して遺物が崩れてしまう可能性もあります。金属遺物などは、費用が発生します。発見は、こちらから最寄りの文化財担当者に連絡し、行政上適切な保管を提案いたします。**

## お問い合わせ

一般社団法人うみの考古学ラボ

<https://www.umilabo.or.jp/>